

1. 開会 16:30

2. 会長挨拶

小山内会長：

新型コロナウイルスの感染状況について、へそまつりのせいから先週からちょっと富良野市では増えている。全道的には少なくなっており重傷者例も少ないので、この会議室で注意してやるぶんには問題ないと考えている。

今日の会議は高齢者、介護保険に関するニーズ調査と在宅介護実態調査の結果の報告であり、その結果を確認してそれを今後役に立させて、「高齢者に住みやすいまち」「少しでも人口が増えるようなまち」になればよい。

円滑な議事の進行よろしく願いいたします。それでは、会議の議事次第に沿って進行させていただきます。

まず議題1に関して、(1) 高齢者・介護保険に関するニーズ調査（介護予防・日常生活圏域ニーズ調査および在宅介護実態調査）の結果報告について事務局の方より説明をお願いします。

議事

(1) 高齢者・介護保険に関するニーズ調査の結果報告・在宅介護実態調査の結果報告
事務局より説明

(質疑・応答)

草野委員：

この結果を市、包括としては、何かこういう風に特徴的にとらえたとか、思っているところがあつたら教えていただきたい。

事務局：

資料をよく読みこんだ上で検討させていただきたい。

小山内会長：

あとなければ、次の議題、事業参入調査の結果について、事務局の方からお願いします。

(3) 事業参入意向調査の結果について

事務局より説明

(質疑・応答)

福永委員：

この場をお借りしてグループホーム事業、富良野あさひ郷の事業について説明させてほ

しい。先ほど富良野市の市民に対するアンケート調査の報告書にグループホーム入所したい方が 26.6%いるとの結果を見て、このような報告をしなければならないということで大変申し訳ない。

廃止する事業として、現在、2ユニットで認知症対応型の共同生活介護事業、グループホームほがらかを運営しているが、非常に状況が厳しく、2024年の3月31日で事業を廃止したい。廃止後については、障害福祉サービスの共同生活援助事業（知的障がい者のグループホーム）に転用したいと考えている。現在の利用者18名に関しては、できる限り段階的に北の峯ハイツに移行できるように協議を進めたい。先月ご家族の方には説明をして、ハイツへの移行を希望か、市内のグループホーム等々を希望かの意向調査をして、その結果を踏まえて支援をしていきたい。

昨日、施設の運営推進会議の場で、町内の方々に説明を行ない、9月19日に東春地区のサロンの場において、事業の廃止・転換について報告する。また事業の廃止につきましては、サロンに参加しない方もいるので、町内全戸にお知らせを配布したい。

大きな理由としては、ひとつはやはり経営面、ふたつめは人口減少による介護員不足。

認知症グループホームほがらかの廃止は残念だが、法人内で入所系、認知症の方の軽度の方の入所サービスは廃止になるが、通所系、認知症デイサービスで代替できないか検討中。第9期の富良野市の介護保険事業計画にもかかわることになるため、決まったら会議で報告をしたい。

認知症の方々が多く、地域の課題を拝見していくと、非常に心苦しい状況であるが、ご理解をいただきたい。貴重な時間をどうもありがとうございました。

松田委員：

国や自治体の高齢者サービスがこういう形で廃止になるということは、どういう認識を持っておられるか、介護福祉課の方に聞きたい。

（事務局）

ただいま福永施設長からもあさひ郷のほがらかの話を伺った。気持ちとしては、ニーズがある以上施設を運営していただきたいというのが正直なところ。しかし施設の経営上の苦渋の決断を覆すのが難しい判断であったため、入所者に迷惑をかけないよう最大限努力いただくということで、進めさせていただいている。

松田委員：

そういう認識があるということは、グループホームもやっぱりあった方がいいと思っていて理解するが、非常に問題のある事象と考える。

一事業所が止めるということだけではなく、こういう状況がどんどん続いていくとなった場合、介護計画が成り立つかどうかに関わります。人材不足などの課題を行政が見ていか

なければ、他の施設も廃止になっていくときに、民間の力だけでやってくださいということだけで済ませられるかというところが問題。

高齢化が進行し、施設で人材不足になり複数の施設が止めていくといったことに対して、市は本当に考えていかなければならないと思う。あさひ郷は寿光園（養護老人ホーム）を持っており、制限の中で運営していると聞いている。仮に特別養護老人ホームを廃止するとなった場合にどうするのか。

計画を立てるけど不安である。富良野も人口2万人を切り高齢化率は高くなっていく。入所を希望する人も多くなる。市が手を差し伸べるような考え方を持ってほしい。

（事務局）

松田委員から貴重なご意見をいただきました。ちょっとこの件とは離れるのですが、介護だけに限らず、医療も看護も含めて、8月7日に各業態の皆さんに集まっていただいて、市長の肝入りで、人材確保・人材育成の会議の開催を今進めてございます。介護人材を含めて、目に見える形で効果が出るような対策ができないかということで、来年度の予算化に向けて、それだけではございませんが尽力していきたいと考えてございます。貴重なご意見ありがとうございました。

小山内会長：

自分も松田先生の意見に加えると、市として介護とか高齢者のことだけじゃなくて全体を見ながら考えなければならない。今一番の問題は人が少なくなってきて維持できなくなっている施設が多いのが事実。

市としてどういう援助ができるのか十分に考えてほしい。計画に対して対応していくの以外に、もっと根本的な部分を見なければならない。

草野委員：

自分はさっき結果に対して市の方で案があればということをお聞きしたのも、事業計画の実施主体が市ですので僕らは構成員としてこうしたらいいじゃないかという意見は述べるが、実際に策定して実施する市が今回の結果をどうとらえているのか、それに基づいて僕たちもではどうすべきといった意見が必要だと思ったので、市の意見を聞きたかったということで補足させてほしい。

小山内会長：

ほか委員の方からご意見質問ございませんか。

資料を見まして感じたのは、ひとつひとつは対応できるかもしれませんが、こういうことを含めた全体の対応が市として一番大事だなと思う。。

皆さんご意見なければ、よろしいですか。

3. その他

事務局より、次回会議の日程調整について確認

小山内会長：

今回は10月中ということよろしいでしょうか。最後になりますけれども、この会議についてご意見ご質問等ございませんか。ないようですので、これで第2回地域ケア推進会議を終了させていただきたいと思います。本日は皆さまどうもありがとうございました。

閉会 17:30